

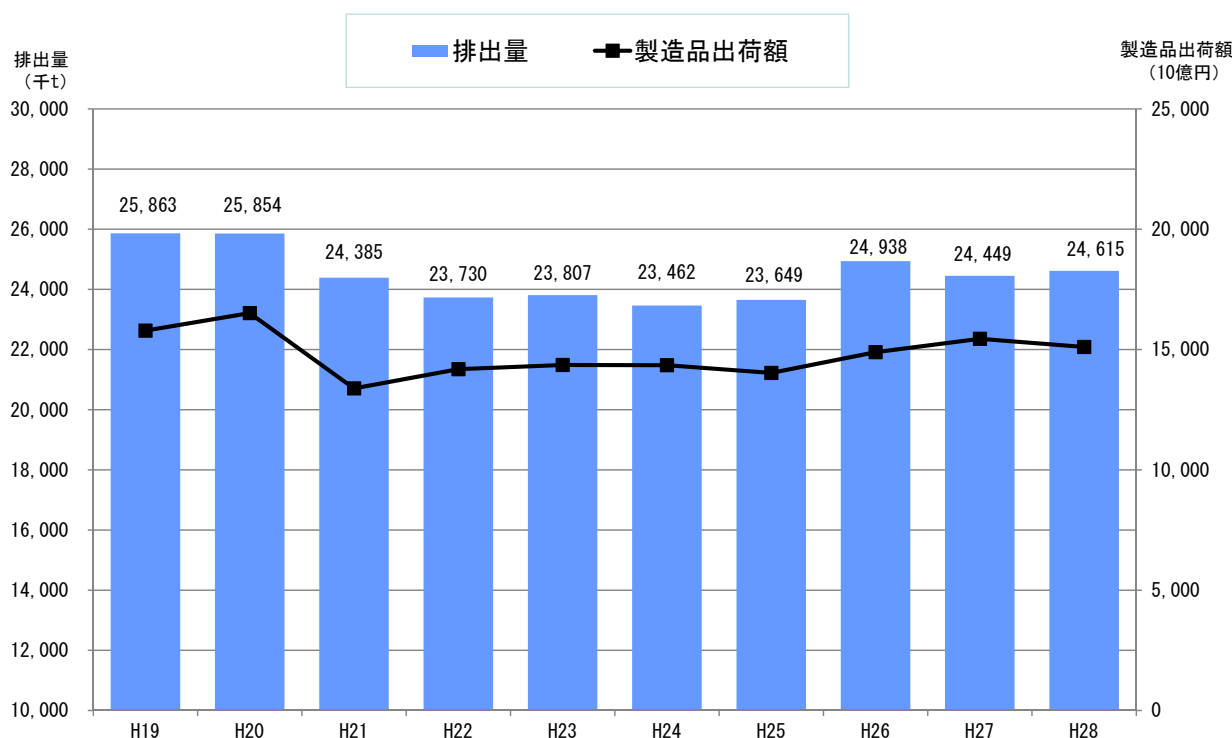
第18回産業廃棄物と環境を 考える全国大会パネル討論会

兵庫県における産業廃棄物の排出量及び処理状況について

兵庫県環境整備課
課長 石岡 之俊

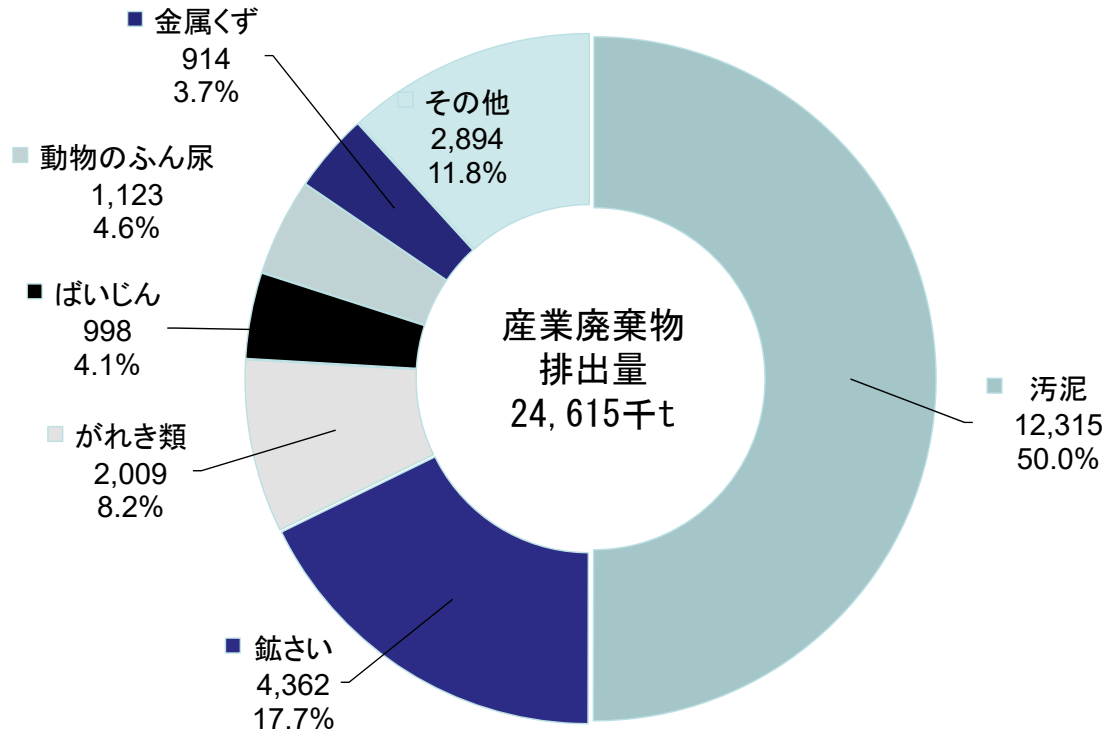
1

産業廃棄物の排出量の推移



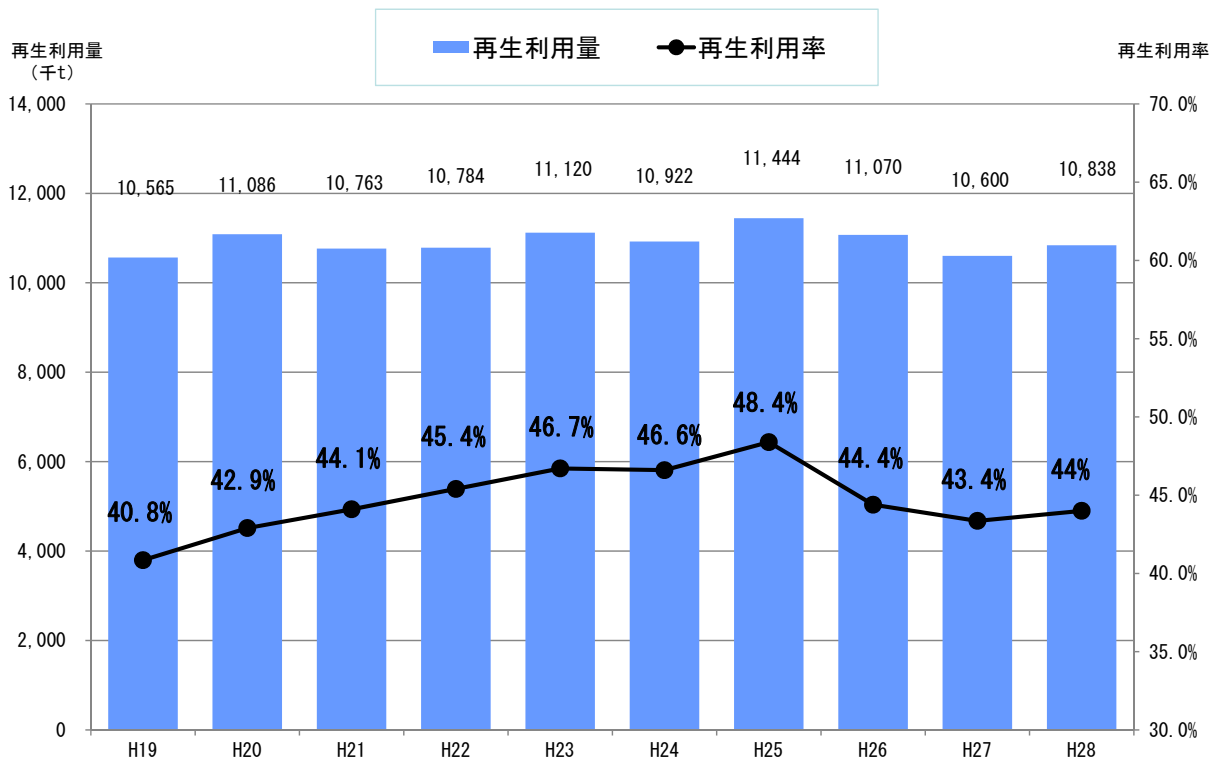
2

産業廃棄物の種類別排出量(H28年度実績推計)



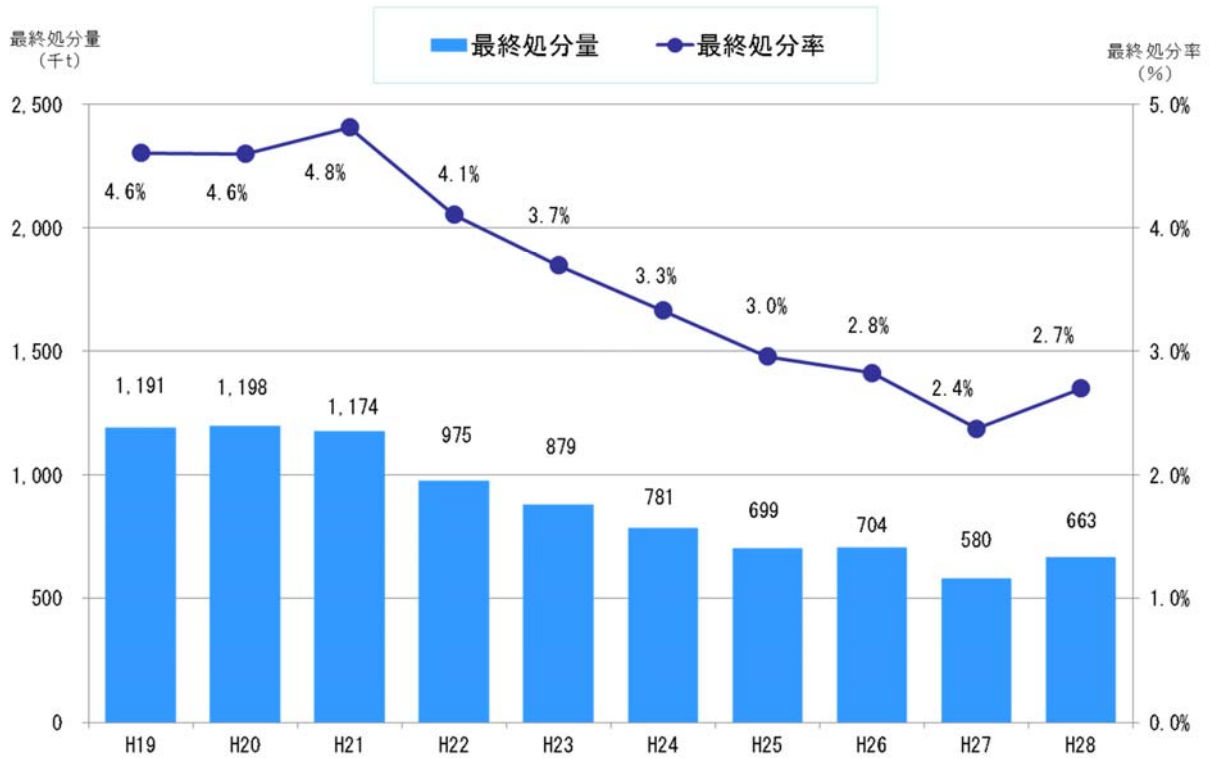
3

産業廃棄物の再生利用量の推移



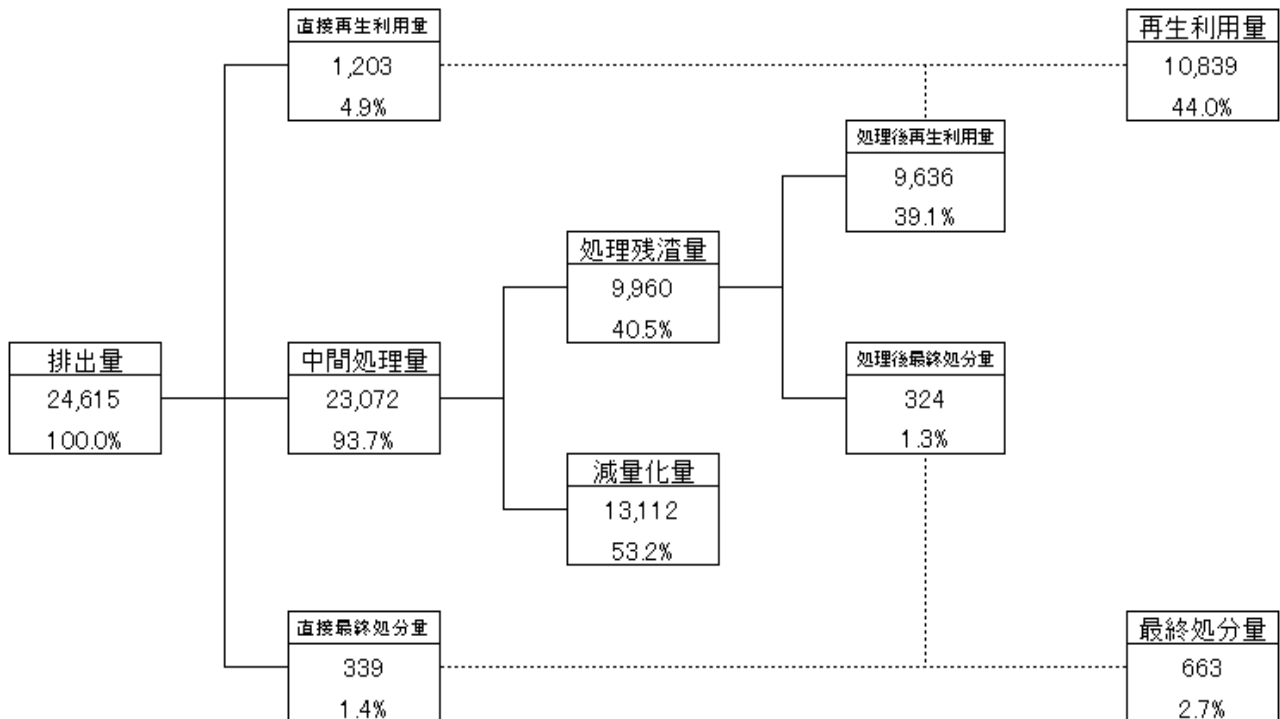
4

産業廃棄物の最終処分量の推移



5

産業廃棄物の処理フロー(H28年度実績推計)



※ 四捨五入処理を行っているため、合計値が合わない場合があります。

(単位: 千t)

6

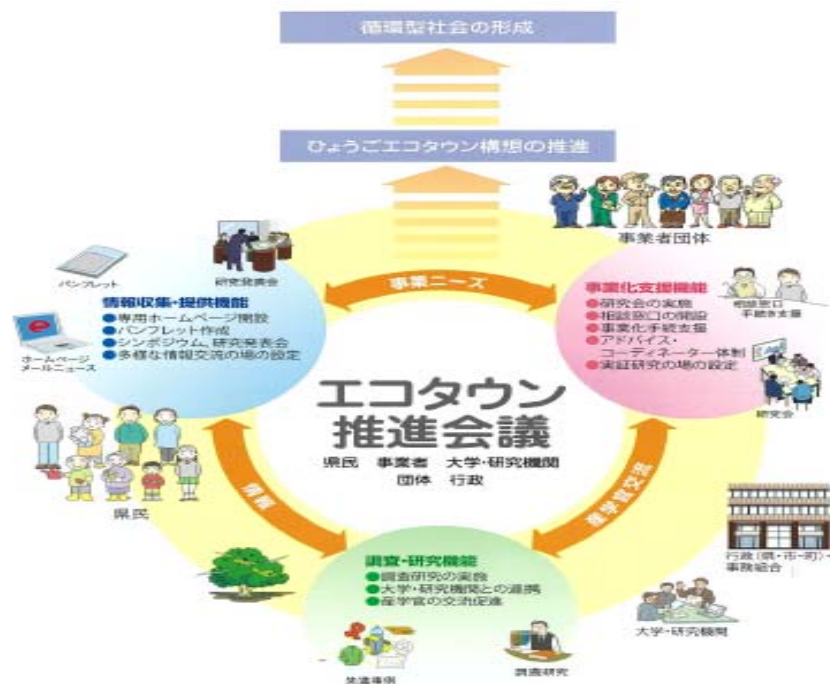
産業廃棄物の実績と目標値

区分		実績		目標値	
		平成24年度 (2012年度) 【基準年度】	平成28年度 (2016年度) 【現状】	令和2年度 (2020年度) 【中間目標】	令和7年度 (2025年度) 【最終目標】
重点目標	最終処分量	781千トン	663千トン <△15%>	571千トン <△27%>	560千トン <△28%>
	排出量	23,462千トン	24,615千トン <+4%>	24,562千トン <+4%>	24,618千トン <+4%>
目標	再生利用率 (汚泥除く)	—	84%	86%	86%
	排出量(汚泥除く)	—	12,229千トン	12,188千トン	12,484千トン
(参考)	排出量(汚泥除く)	—	12,229千トン	12,188千トン	12,484千トン

※ <>括弧内は基準年度(平成24年度)比

ひょうごエコタウン推進会議について

平成15年4月、ゼロ・エミッションを目指して環境調和型のまちづくりを推進する「ひょうごエコタウン構想」が国の承認を受けました。県民、事業者、行政等幅広い関係者の参画と協働のもとエコタウン推進会議(事務局(公財)ひょうご環境創造協会:会員数209社)を運営し、リサイクルの調査・研究等の環境技術の向上・開発を図っています。



ひょうごエコタウン事業例

- 鉄鋼スラグの利用促進
 - (陸域利用)・実物大スラグ混合盛土実証実験を継続実施
 - ・鉄鋼スラグ混合土を盛土材料として使用する際の設計
 - ・施工基準ガイドライン案の策定
 - (海域利用)・漁場再生実験及び追跡調査の実施
- 炭素繊維強化プラスチック (CFRP) の廃材・端材の活用
 炭素繊維リサイクル研究会 埋立処分されている炭素繊維を独自の技術で炭素繊維を分離した再生炭素繊維を自動車部品として販売。
- 廃食用油のリサイクル
 使い終わった食用油を乗用車でも安定して利用できるB5軽油としてリサイクルを実施。
 兵庫県では、B5減免措置として全国初の取組を施行している。
- 塩化鉄廃液の再生リサイクル
 ICU産業から排出される塩化鉄廃液を自製鉄粉を活用した再資源化処理技術により、廃液は高純度な塩化鉄液に再生し、また、廃液中の有用成分(銅、ニッケル等)の分離回収を実施。

産業廃棄物セメントリサイクル事業

住友大阪セメントで、セメント製造プロセスを利用し、産業廃棄物をセメント原料やセメント製造原料として再資源化することにより、二次廃棄物の発生がないゼロエミッションベースの処理を実施。

